



＜ご支援いただいた人たち＞

陸上競技協会(8人)、町婦人会(60人)、交通指導委員(12人)、スポーツ推進委員(15人)、隊友会益城支部(3人)、走ろう会(10人)、熊本大学学生ボランティア(18人)、サントリー(22人)、熊本YMCA(3人)、YMC九州(3人)、町医師会(1人)、九州電力(10人)、陸上自衛隊(26人)、未来トーク(2人)、他自治体応援職員(3人)
 〈町職員〉73人



大会進行を務めた
 木下知香さん(蛭子町)

「初めての司会でしたが、広大な緑の敷地にみんなの溢れんばかりの笑顔が印象的でした。催し内容にメリハリがあって司会の私も楽しかったです」



5

大好評だった豚汁を振る舞った町婦人会会長の富田セツコさん(福富)



「今年は例年と違い、準備など大変な思いもりましたが、訪れた方たちの笑顔があふれる素晴らしい一日でした。九州電力や自衛隊、役場の方々とも連携し、成し遂げることができました」

してまた、大会の趣旨に賛同し、抽選会に賞品を提供していただいている各団体、企業のおかげでもあります。
 震災から1年を経過し、復興を願うための開催となった今回のジョギングフェア。約半年前から準備を進めてきた大会は、皆さんの協力と支援の輪によって、大成功のうちに幕を閉じました。

6

①スタート地点の設営を行うスポーツ推進委員 ②スタート地点とコース途中に分かれ力強い太鼓で参加者を応援する益城太鼓保存会弾正太鼓の子どもたち ③ホクホクご飯をパックに小分けする九州電力の職員。ふりかけをかけ、振る舞われました ④給水車と大きな釜を用意し、白米を炊く自衛隊員。思えば震災直後にも自衛隊の炊き出しに助けられました ⑤会場に設けられた大画面モニターでは「未来トーク」の若者たちが制作した協賛企業のメッセージビデオが流れました ⑥町婦人会が豚汁を調理する釜には大きな炎が灯り、テントの中は熱気がこもっていました。防災釜1器は震災後、株式会社中西製作所から寄贈されたものです